発行月：平成 28 年 9 月　家族新聞　第454号

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事　髙橋賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
（渋川福祉センター内）
TEL 0561-51-2878

第3回 三河湾大感謝祭 ～三河湾環境再生プロジェクトで

平成28年9月23日(土)
豊橋市ライオンポート とよはし
（豊橋市神野新町）

三河湾環境再生パートナーシップ・クラブ
クラブ会員の名城大学附属高等学校
ブースをあてました。

海のステージで地元の人達のダンス

煮干の解剖体験マニュアルづくり

（このイメージはカタクチイワシ）

この体験マニュアルづくりはこの室内場所での体験コーナーでは最高のプースでした。子供達は難しそうで細まかいものなので非常に時間がかかるので人を集まっていなかった。しかし、このポストをあてた理由として子供達には挑戦心がめばえる要素は充分にあるように考えられました。

▲煮干の解剖見本（カタクチイワシ標本）

生きものはなかなか解剖しようとは思わないが、煮干の解剖ならなら子供達も安心して夢中になれる材料にはなるでしょう。

朝焼け小焼け大漁だ／大羽鰮の大漁だ。いま心配なのは、その大漁も鰮のとれすぎだろう！魚たちの健康である。研究者が東京湾で取れたカタクチイワシを調べたら、八割近くの内臓から「マイクロプラスチック」と呼ばれる微細なプラスチックの粒が見つかった。この手の粒は、日本周辺海域では、世界の海の平均の二十七倍にもなるとの調査結果もある。フランス国立海洋開発研究所の最新の調査で、マイクロプラスチック入りの水で力キを育てると繁殖に悪影響が出ることも明らかにされた。海のマイクロプラスチックがすごい勢いで増えていることだけは確かだ。二〇五〇年にはマイクロプラスチックの方が魚の総量より多くなってしまうとのこと。魚よりプラスチックが多い海となっては海そのものの「とむらい」をせねばならなくなるであろう。

▼県立三谷水産高等学校の生徒による貝殻アクセサリーづくり